

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立 津山西中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 豊かな人間性を持つ生徒
- 学び合い、磨き合う生徒

今年度の指導の重点

『鍛える』『磨く』『つなげる』

- 1 基礎学力の定着と学び合いによる学力向上
- 2 規範意識の向上と道徳心の育成
- 3 生徒会活動の活性化による主体性の育成
- 4 個別の課題にあった支援の充実

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- (全国)
- 国語(A、B)・数学(A、B)ともに、基礎・活用の正答率が県平均より低い。
 - 国語Aの「漢字の読み」「適切な語句の選択」の正答率が県平均より高い。
 - 辞書を活用し、漢字が表している意味を正しくとらえる:68.4%(県62.8%)
 - 国語Bについては、必要な情報を正しく読み取り、根拠を的確にして、自分の考えを書くことを苦手としている生徒が多い。
 - 図鑑の説明を読み取り、わかったことを書く:36.6%(県52.6%)
 - 数学Aについては、関数や数学用語の意味を理解して解く問題を苦手としている生徒が多い。
 - 一次関数の関係を式に表す:27.3%(県50.0%)、一次関数の式から変化の割合を求める:30.2%(県53.1%)、資料を整理した表から最頻値を求める:21.5%(県50.3%)
 - 数学Bについては、文章を読み取ったり、記述して説明したりする問題の正答率が低く、無回答率が高い。
 - 考察の対象を明確にとらえることができる:54.7%(県72.2%)、数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することができる:9.3%(県30.3%)、適切な事柄を判断し成り立つ理由を数学的表現を用いて説明することができる:31.4%(県47.8%)
- (県)
- 国語・数学・社会・理科ともに、基礎・活用の正答率が県平均より低い。
 - 国語については、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の正答率が県平均との差が小さい。
 - 数学については、正答率が県平均との差が小さい設問もあるが、基礎に関する設問で県平均との差が大きい。
 - 社会については、「社会的な思考・判断・表現」の正答率が県平均より高い。
 - 理科については、「生物の体のつくりとたらしき」では、正答率が県平均より高い設問もある。「科学的な思考・表現」の正答率が低く、県平均との差が大きい。

【学習状況調査の結果】

- 「早寝を心がけている」「学校に行くのは楽しい」「好きな授業がある」「授業のはじめに、目標が示されていた」「授業の最後に、授業を振り返る活動をした」「学習の目標とまとめをノートに書いた」「授業の中で話し合い活動を良くしていると感じている」の割合が県平均より高い。
- 「家の人と話をよくする」「家の手伝いをしている」「地域の行事へ参加している」「地域の出来事に関心がある」の割合が県平均より高く、家庭・地域とのつながりが見える。
- 「友達との約束を守る」「学校の規則を守っている」「人の役に立つ人間になりたい」の割合が県平均より高い。1年生では低い。
- 「毎朝、朝食を食べて登校する」の割合が県平均よりかなり低い。
- 「自分には、よいところがある」の割合が県平均よりかなり低く、自己肯定感の低さが見られる。
- 家庭学習の時間については、平日1時間以上する割合が県平均とほぼ同じ、土日や休日に勉強する割合が県平均よりかなり低く、土日や休日に全くしない割合が高い。
- 1日の読書時間及び「読書が好き」の割合が県平均よりかなり低い。
- 自分の考えを説明したり文章を書いたりするのが難しいと感じている生徒が多い。
- 「学校の宿題をしている」の割合が県平均より低い。
- 携帯電話やスマートフォンの所持率は県平均より高く、「家の人と約束を守って使用している」の割合が低い。
- 人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはいけないことだと思う」「ボランティア活動に参加したことがある」の割合が県平均より低い。
- 近所の人にあつたときは、挨拶をしている割合が県平均より少し低い。

成果と課題

- 【成果】
- 国語A・数学Bについては、「学力定着状況たしかめテスト」より県平均との差が縮まった。
 - 授業の「目標」「まとめ・振り返り」ができていると答える生徒が多く、特に「振り返り」については、昨年度より大きく好転した。
 - 「協同学習」を取り入れていることから、話し合い活動が充実しつつある。
 - 規範意識については、昨年度より大きく好転した。教職員間の共通理解や関係機関との連携の成果といえる。
- 【課題】
- 国語・数学ともに、「自分の考えを説明したり、文章に書いたりする」を苦手としている。
 - 国語については、「必要な情報を正しく理解し読み取る」「根拠を的確にして自分の考えを書く」を苦手としている。
 - 数学については、「基礎的な計算問題を解く」「数学用語を正しく使用する」「問題の意図を的確にとらえ、数学的に解釈・処理・考察・説明する」を苦手としている。
 - 土日や休日に勉強をする割合がかなり低く、全くしない割合が高い。
 - 自己肯定感や道徳心を問う設問が3年生・1年生ともに低い。1年生では、規範意識を問う設問も低い。

課題に対応した改善方法

- 勉強できる環境づくりとして、「チャイム着席」「ごみなし」「整理整頓」を徹底し、落ち着いて学習が始められるように授業開始5分間に全教員で校内巡視をする。
- 全教科において、話し合い活動、自分の考えや説明などを書く活動を取り入れる。
- 国語・数学・社会・理科・英語では、「問題データベース」などを利用し、授業の中で復習を行う。
- 国語では、漢字練習を毎日1ページさせる。また、「思考ツール」を利用し、根拠を的確にし自分の考えをまとめて書く場面を設ける。
- 数学では、授業の中で小テストを実施し基礎的内容の定着を図る。また、設問の意図を的確にとらえ自分の考えを書かせる場面を設ける。
- 月1回の水曜の6時間目を「西中タイム」とし、数学の基礎的内容の学び直しをする。
- 学期に1回、国語の漢字・英語・社会の基礎的内容の全校一斉朝学習を一週間行い、全校統一テストを実施する。
- 土日や休日の課題では、全国学力・学習状況調査の過去問などを利用し、既習内容の学び直しを行い、学力定着状況たしかめテストや自己診断テストなどで定着を確認する。
- 生徒の作文や作品、学習内容(社会科の重要用語や国語の四字熟語など)を校内に掲示し、学習環境を整える。
- ノーマディア週間の取り組みを引き続き、小中連携を通して行う。
- 行事や道徳や学活、朝読書等の時間を利用し、規範意識や道徳心の向上を目指す指導を計画的に行っていく。
- 授業の中で「協同学習」を意図的にを行い、学力の向上とともにあたたかい人間関係づくりを進めていく。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
- 学校自己評価アンケートの実施(11月)
- 生徒への授業・学習状況アンケート(12月)
- ノーマディア週間の取り組み・集計(テスト週間に合わせ実施 学期に1~2回)
- 自己診断テスト・年度末確認プリントの実施(3学期)
- 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全国学力・学習状況調査で、正答率を県平均に近づける。
- 「学校の規則を守っている」の割合を100%に近づける。(現在1年生93.3% 3年生97.1%)
- 全教科で、授業の終わりに授業内容の確認を必ず行う。
- 「学校の宿題をしている」の割合を100%に近づける。(現在1年生97.4% 3年生87.6%)
- 「土日や休日に家庭学習を全くしない」の割合をゼロに近づける。(現在1年生16.1% 3年生18.8%)
- 「自分にはよいところがある」の割合を県平均より高くする。(現在1年生71.1% 3年生63.6%)
- 人が困っている時は、進んで助ける」の割合を県平均より高くする。(現在1年生76.5% 3年生81.8%)